

臨地実習（感染看護学 / 教育・研究コース）

[実習] 1年 後期 必修 90時間 2単位

《担当者名》 塚本 容子 [yokot88@hoku-iryo-u.ac.jp]
山田 拓[yamada_k@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

感染看護学特論・演習で学習したことを活用しながら、実習課題を明確にし、臨床現場において実習を行う。感染症を持つ患者への看護実践そして医療関連感染サーベイランスを計画し、実践する

【学修目標】

- 1) 主要な感染症を持つ患者の身体的・精神的アセスメント、看護介入、評価に関してケアプランを作成し、実践する能力を養うことができる
- 2) 感染症を持つ患者個人に対してのみでなく、感染症予防・管理として集団に対して公衆衛生学的知識を用いて、アセスメント・介入・評価に関して計画し、それを実践する能力を養うことができる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	臨地実習	【実習方法】 指導教員の指導のもとで実習課題を明確にし、実習計画を立案し実習を行う。実習終了後には、実習計画内の自己目標の到達度についての今後の課題を明確にしながらレポート作成する 実習先では、実習指導者の指導・助言のもとに実習を行う 【実習期間】 2週間から4週間 但し、集中実習か分散実習かについては、学生の実習課題や学習状況により相談、決定する	塚本 山田
	実習場所	北海道医療センター、斗南病院 ほか学生の状況に応じて随時検討	

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

―授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習評価表（40%）、報告書・レポート及びプレゼンテーション（60%）を総合して、評価

【学修の準備】

必要な文献・資料等に目を通しておくこと

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。